

ホームページや環境関連資料の発行、イベントなどを通じて県民のみなさんとコミュニケーションを図っています。

①環境NPO等への支援

平成12年2月に「三重の21世紀環境創造活動支援基金」を設立し、その運用を三重環境県民会議に委ねて、地域で活動する環境NPO等の活動を支援しています。三重環境県民会議では、県内各地で地域交流会を開催（平成16年度において18回）するとともに、県内各地で環境保全活動を展開する24団体を地域環境情報連絡団体とするネットワークを形成しました。また、平成

17年2月20日には、環境NPOの活動発表会「エコリンピックみえ2005」を開催しました。

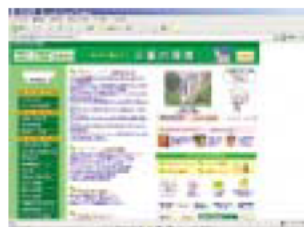


エコリンピック
みえ2005
(津市)

②情報発信

●ホームページ「三重の環境」

協働・連携の実現には情報公開・情報発信が最重要であるとの考えのもと、三重の環境に関することが何でもわかるホームページ

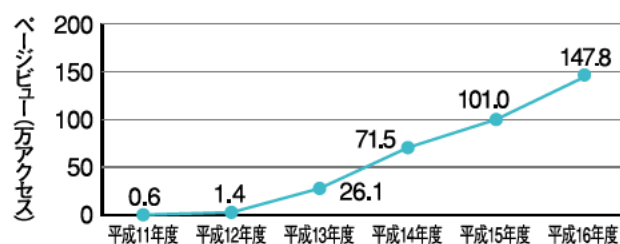


ホームページ「三重の環境」

「三重の環境 <http://www.eco.pref.mie.jp>」を毎日更新（全国初）し、毎月平均約148万

ページビュー、年間1,774万ページビュー（平成16年度実績）のアクセスがありました。

環境情報アクセス件数（1ヶ月平均）



③環境関連資料の発行

三重県の環境問題に対する理解を一層深めていただくため、三重県環境白書や環境報告書の

他にも、環境に関する報告書やパンフレットを作成しています。

④ 県民のみなさんからの声を大切にします

県内外のみなさんから電話や葉書・封書、電子メールでお寄せいただいた環境関連のご意見やご質問に対して速やかに対応するとともに、内容や対応を「県民の声データベースシステム」に登録し、情報を共有化することで、県民ニーズの把握、苦情再発の防止等に積極的に活用しています。

平成16年度に「県民の声データベース」に登

録された904件のご意見のうち、環境に関する「県民の声」の件数は203件ありました。

その他、県民1万人アンケートやインターネットのホームページなどによりパブリックコメントを募集し、その意見を施策や事業の展開に反映していきます。

⑤ 環境報告書データベースへの登録

平成17年版環境報告書については、環境報告書データベースなどに登録し、全国のみなさんに情報提供を行います。

環境報告書データベース

(財)地球・人間環境フォーラム環境報告書データベース事務局
<http://www.kankyohokoku.jp>

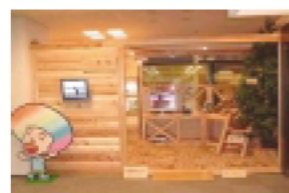
⑥ ATCグリーンエコプラザへの出展

大阪南港のATCグリーンエコプラザに自治体出展第1号として、平成14年7月20日から三重県ブースを設置しています。

三重県産間伐材を使ったブースで、「三重県は環境経営を推進しています」をテーマに、「環境経営」の取組、日本環境経営大賞、集積する環境先進企業、県認定リサイクル製品、FSC森林認証制度等を紹介しています。

三重県の取組を関西圏に情報発信し、新たな

人的ネットワークを築くとともに、三重県の良さの再発見の場として積極的に活用しています。また、環境報告書ライブラリーには、三重県環境報告書を設置し、全国に情報発信しています。



ATCグリーンエコプラザ
(大阪市 住之江区)

⑦ 創造の森(プレゼンテーションルーム)の活用

環境森林部内に、県産材を使用したプレゼンテーションルーム「三重の環境 創造の森」を設け、県庁訪問者とのコミュニケーションの場としています。平成16年度には11団体356名の見学がありました。

また、職員が三重県の環境施策や県庁の環境取組について説明したり、企業や学識経験者等と職

員との情報交換の場として活用するなど、県民のみなさんとのコミュニケーションの場として積極的に活用しています。



「創造の森」で学習する小学生
(津市)

⑧ 庁舎周辺の美化活動

勤務する職場の周辺を美しくすることは、快適な生活環境づくりの第一歩と考え、県職員が自主的に年間を通して庁舎周辺の美化活動を行っています。

平成16年度は本庁・県民局を合わせて延べ3,680名が参加しました。



美化活動
(県庁舎周辺)(津市)



美化活動(南勢志摩県民局)(伊勢市)

⑨ 環境に関するイベントやシンポジウムの開催

●「こどもかんきょう体感フェア2004」の開催(平成16年8月26日・8月27日)

次世代を担う子どもたちに向けて、NPO、関係団体、企業及び行政などが協働・連携し、環境負荷低減の新しい技術(太陽光発電・燃料電池など)とのふれあいや市民レベルでの環境保全活動への参加・体験の場を設け、子どもたちが未来への希望を持ち、自ら考える機会を提供しました。



こどもかんきょう体感フェア2004(四日市市)

●宮川流域エコミュージアム全国大会(平成16年9月17日・9月18日)

宮川は、平成14年、15年と2年連続で、国土交通省が行う全国1級河川水質ランキングベスト1位となった全国屈指の清流です。

今後も豊かな環境に育まれてきた自然や歴史などを守り伝え、活かしていくため、宮川流域では、流域12市町村の住民と行政が協働して「エコミュージアム」による地域づくりに取り組んでおり、平成16年9月17日から2日間、北海道から奄美大島まで、のべ1,250名が参加して、宮川流域エコミュージアム全国大会を開催しました。



15のコースを流域案内人が中心に企画し、行事を運営しました。

●「ごみゼロ推進フォーラム」の開催(平成17年3月30日)

ごみゼロ社会実現プラン(平成17年3月策定)を、あらゆる主体が共有し、県内外に向けて強くアピールすることにより、気運の醸成や志気の高揚を図るとともに、一人ひとりが「今日から行動を変える」という意識や価値観、ライフスタイル転換のきっかけづくりとするため開催しました。



ごみゼロ推進フォーラム
ごみゼロ宣言(津市)

⑩三重大学のみなさんとの意見交換会

平成17年8月10日、三重大学のみなさんと三重県の環境保全取組に関して意見交換を行いました。三重県庁環境保全取組の紹介と、施設見学

会を実施し、貴重なご意見をいただきました。下記に主な意見を紹介します。私達は、この貴重なご意見を今後の活動に生かしていきます。

環境森林政策について

ご意見

- ①産業廃棄物税の導入効果について、教えてください。
- ②不法投棄対策等について、隣接県との協力について教えてください。

県のコメント

- ①産業廃棄物が減少傾向にあるので、税の導入効果が現れているかと思われます。
- ②近隣4県と会議を開催し、監視体制などで連携（産廃のパトロール）をとることを検討しています。

意見交換会
(環境森林部
創造の森)



ISO14001への取組について

ご意見

- ①平成17年度は2度目の更新審査を迎えるとのことですが、次のステップとして努力目標などもたてていくべきではないでしょうか。
- ②組織体制の見直し、手順書の簡素化など、システムの整備についても期待しています。
- ③環境森林部以外の部署への意識づけはどのようにしているのですか。フィードバックのシステムなども検討してはいかがでしょうか。

県のコメント

- ①更新に向けて、数値目標のみにこだわるのではなく、行動そのものに着目していきたいと考えています。部署独自の業務における取組や、各職員が自発的に取り組めるような形にしていきたいです。
- ②組織体制については、各部署の所属長と実際に行動する職員が連携がとれるように改善していく方向です。手順書等については、既存のものを活かすことで簡素化し、本来業務の中で取組を進めていければと思います。
- ③管理職への意識づけが重要と考え、今年8月上旬に研修を実施しました。また、フィードバックについては、各部署長・県民局長が評価できるようなシステムづくりをしていく必要があると考えています。

環境保全への取組について

ご意見

- ①グリーン購入の取組は、国のグリーン購入法が施行されてからですか。
- ②グリーン購入についてトッパーナーとして取り組んでいることをもっとPRしてはいかがでしょうか。

県のコメント

- ①グリーン購入は、国のグリーン購入法が施行される以前の平成11年度から、物品について取り組み始めました。
- ②環境報告書やホームページをとおして積極的に取組状況をアピールしていきたいと考えています。



ご協力頂いた三重大学の皆さん(9名)



施設部長 船見 康博
理事・副学長 渡邊 梯爾
施設部施設企画課課長補佐 沼田 敏男



人文学部文化学科4年 真田 悠次
人文学部文化学科教授 朴 恵淑
人文学部文化学科4年 朝日 まみ



生物資源学部共生環境学科4年 小山 良子
生物資源学部共生環境学科教授 佐藤 邦夫
生物資源学部共生環境学科3年 大西 玲